

平成 21 年 3 月 1 日号



写真：萩市見島診療所前で、研修医井上裕文さんと萩市見島診療所長中嶋裕さん

医学部を卒業し国家試験に合格した若い医師は、2年間かけて複数の診療科を研修する「卒後臨床研修」を受けることになっています。その研修メニューの1つ、「地域保健・医療研修」において、井上裕文さんは、防府市内の「山口県立総合医療センター」から萩市見島に出向き、離島での地域医療を経験されました。

地域医療の現場より 2

県立総合医療センター研修医 井上 裕文さん
聞き手：萩市見島診療所長 中嶋 裕さん

山口県からのお知らせ：「やまぐちドクターネット」をご覧ください！ 6

「山口の今！」 山口大学医学部地域医療学講座（寄附講座山口県）のご紹介 ... 6

今後継続発送を希望される方の手続き方法 8

「地域医療の現場より」 県立総合医療センター研修医 井上裕文さん

～ 離島の地域医療現場を学ぶ研修に飛び込んだ若手医師 ～

第8回の「地域医療の現場より」では、萩市見島診療所に研修に来られた、県立総合医療センター研修医の井上裕文さんにスポットを当てます。

インタビューは、その研修の受入を御担当された同診療所長の中嶋裕さん（医師）にお願いしました。

～ 井上 裕文さん プロフィール ～

- ・ 昭和 56 年、山口市小郡に生まれる。
以後小郡育ち。山口高校卒。
- ・ 平成 19 年 3 月山口大学医学部を卒業し、同年より、
県立総合医療センターでの研修医として活躍中。



～ インタビュー担当 中嶋 裕さんプロフィール ～

- ・ 平成14年3月 自治医科大学卒業。
卒後、出身県である山口にてへき地医療等に従事中。
- ・ 平成20年5月より、萩市見島診療所に勤務。
現在に至る。



中嶋：今回の医療の風便りでは、私が勤務している「萩市見島診療所」に研修に来てくださった井上先生に、いろいろインタビューしてみようと思います。井上先生、よろしくお願いします。

井上：よろしくお願いします。

卒後臨床研修について（研修先、目標など）

中嶋：井上先生は、現在、県立総合医療センターでの研修中ですね。まず、研修先をどうやって選定したのかについて、教えてください。

井上：はい。僕が県立総合医療センターを選んだ理由は、産婦人科にいらっしゃった臨床研修1期の田村先生の影響が大きかったです。すごく忙しそうだけど、すごく楽しそうに仕事をしていらっしゃって…。その時点で「この病院だ！」と思いました。

今の職場では、一生懸命働けて、楽しいし、とても有意義です。

中嶋：研修では、他大学卒業医師との接点も多いのでしょうかね。

井上：はい。彼らと接する機会を通じて、初めて分かったこともあります。特に、自治医大卒医は、卒後3年目から、へき地・地域の現場に出る状況を見据えて研修していることについて、特に刺激になっています。「負けてられない」という、良い意味での刺激です。

彼らは自分の到達目標を明確に想定しながら、研修しているように思います。「何でも全てしなければいけない」というよりも、「何を、どこまで、自分で背負い、行うのか」という意識を持ち行動しているように思います。彼らと全く同じことをしなければいけないとは思いませんが、具体的な到達目標を持っている点を見習うようにしています。

中嶋：この度、「地域保健・医療研修」で、萩見島診療所にいらっしゃったわけですね。井上先生は、「耳の検査」の実践、という明確な目標を持っていましたよね。

井上：はい。また、「耳の検査という診療手技」もですが、「地域独特のニーズを思い図る」ということも意識するよう努めました。研修では、診療にきた患者さん本人だけでなく、家族を含めたマネジメントをしなくてはいけないというのを感じました。特に個人だけではなく全体のことを意識して動くことなども知ることができました。



地域医療研修で見島を選んだ理由について

中嶋：ところで、この度の研修先に見島を選んだ理由は、何ですか？

井上：「どうせ行くなら一番離れている島に行ってみよう」と思ったからです。それは、救急車が行けない地域での「医師の対処方法」を見てみたいというのもありました。

中嶋：今回の研修期間中は、そういった緊急事例はありませんでした。研修期間中に、実際の過去の症例を通じて救急へり搬送について検討会を開催しました。それはどう感じましたか？

井上：やはり、搬送するか、しないか、「判断」はとても難しいと思いましたね。緊急度もありますが、地理的な要因も含め様々な要因を総合的に考慮して搬送判断することは...

中嶋：そうですね。やはり緊張しますね。

井上：本土のように、救急車で病院へ行くのとは違いますよね。年齢的な問題や家族の希望なども、重要な判断要因になりますよね。はっきりした基準があっないようなものですね。

中嶋：そうかもしれないですね。

他の研修メニューについて（萩市大島訪問）

中嶋：さて話題は変わりますが、今回は、別の離島「萩市大島」でも研修を受けてもらいましたが、いかがでしたか？

井上：大島では、診察研修以外に、学校の養護の先生とお話しする機会がありました。「大島では虫歯が多い」ということで、学校・家族だけでなく、診療所や給食担当の職員などが連携していました。子供達を継続的に指導していく姿勢で、フットワーク軽く、みんなで支えあっている、という感じを受けました。

中嶋：良い経験をしましたね。

井上：見島も大島も、島民の方の健康に対する意識が高いと感じました。中でも、「予防」や「対症療法」などについて、特にそう感じましたね。

中嶋：離島だからという理由はあるかもしれませんが、私も普段の診療で感じるがありますね。

他の研修メニューについて（萩環境保健所訪問）

中嶋：また、県の萩環境保健所にも研修に行ってもらいました。

以前、小児科、特に循環器科を専門に臨床をなさっていた、砂川博史保健所長が研修を引き受けてくれました。井上先生は、将来、小児科専攻を希望していますが、それも含めて保健所の研修はどうでしたか？

井上：実はこれまで、保健所がどんな仕事をしているのかさえ全く知りませんでした。研修で初めて耳にする事項も多かったです。すごく新鮮でした。保健所の全体的な役割についても理解を深めることができましたし、人材的資源の活用や保健活動などの「地域における土台作り」の企画、そしてその先に、将来を見据えた「ビジョン」をうかがい知ることができました。「一般臨床」では見えなかったことを見ることができました。

また、砂川所長の小児科医としての経験談では、以前勤務されていた病院の創設期の奮闘、システムを作り上げていった御苦労などをお聞きでき、非常に興味深かったですね。さらに萩の夜間小児救急医療システムについてもお話いただけました。

非常に勉強になりましたね。

研修全般について

中嶋：さて、今回の研修は、全体としてどうでしたか？

井上：まず、研修医は、研修では、実際の地域医療現場を回るべきだと思いました。

自分は、県立総合医療センターといくつかのへき地診療所しか知らない身です。それでも、その病院規模や地理的な問題などを背景とした「コンセプトの違い」が明確になりました。診療所では、病気自体を治すということは当然としてありますが、病気をもった患者個人へのマネジメント、予防的視点からの啓発、家族問題への対峙、地域全体を包括した取組など…。



土地の近接性や密着性を、研修病院よりも色濃く感じる事ができた研修でした。

中嶋：そう感じてもらえると地域研修が有意義だったと思います。ありがとうございます。

研修前に抱いていた「地域医療」のイメージ

中嶋：ところで、井上先生は研修に来る前の「地域医療」ってどのように思っていましたか？

井上：漠然とした印象しか持っていなかったのですが、「医師と住民の距離が非常に近いだろう」と思っていました。

中嶋：実際に研修をしてみて、その印象は変わりましたか？

井上：少し変わったと思いますね。医師と住民との距離という意味では、確かに都市部病院と比べると近いという感じはしますが、「一定の距離を保ちながらも、近い」という感じでしょうか？

うまく言えないのですが、「べったり」という感じではありません。

良い意味で「それぞれ相互に関わりあっている」という印象です。



率直な意見交換（離島地域医療に関して）

中嶋：さて、地域医療に対する厳しい意見なども、あえて言ってもらっても良いですか？

井上：そうですね...(苦笑)。2年毎など、定期的に医師が派遣されて交代するシステムの場合、診療自体のみならず、島や地域での取組までも、各医師個人の特性や得意分野などに多少影響されるように感じました。

住民の方の意識が高いと感じられたので、「医師に左右されない、継続的な取組」が、地域でできるともっと良いのかな？と思いました。

中嶋：そうですね。継続的な取組ができることが、島にとって、本当の意味で大事かもしれませんね。

最後に

中嶋：いろいろとありがとうございました。井上先生の貴重な御意見を参考にして今後にも役立てていきたいと思います。先生も、これからもがんばってくださいね。

井上：ありがとうございます。がんばります。

(両者、固い握手)



◀ 山口県からのお知らせ ▶

「やまぐちドクターネット」

URL : <http://www.y-doctor.med.yamaguchi-u.ac.jp>

山口県医師確保総合情報サイト「やまぐちドクターネット」をご覧ください！

山口県では、県職員として採用し、地域の公的医療機関等で勤務していただける医師の募集や、将来県内の公的医療機関等での診療を志望する医学生を対象とした医師修学資金、専門医(後期)研修医の研修資金の貸付など、山口県の地域医療に貢献する医師を支援する様々な取組を行っております。

これらの取組や、県内の医療機関の情報などを掲載した、山口県医師確保総合情報サイト「やまぐちドクターネット」を開設しておりますので、是非、ご覧ください。



山口大学医学部地域医療学講座（寄附講座山口県）のご紹介

山口大学医学部地域医療学講座 教授 福田吉治 さん

「山口の今！」
御寄稿をいただきました！

講座の概要

山口大学医学部地域医療学講座は、平成20年4月、県の寄附講座として開設されました。その役割は、広域的な医療機能連携、山口県内における医師の確保と効率的配置、過疎地の医療を担う総合診療医の養成、広域的な救急医療の支援、等に関して研究を行い、政策提言を行うことにあります。

すなわち、山口県の医師不足の解消、医師を含む医療資源の効率的な配置と連携等により、県民が安心して質の高い医療を受けることのできる環境を作ることを目指しています。

講座では、教授1名(私)、助教1名(原田唯成)、事務補助員2名のスタッフのほか、医学科の自己開発コースの学生、研究の手伝いをしていただいている保健学科の学生など、少人数ながら、アクティブに、そして楽しく仕事をしています。

常に脳を活性化させておくために、血糖値を適正に(ただし、正常範囲内に)維持するスイーツを切らさないことが教室のモットーです。

是非、お気軽にお寄り下さい。ただし、大変分りにくいところがありますから、自力でたどり着くことはあきらめて、お電話下さい。



講座の活動

私が着任して、1年近く経ちました。

現在、山口県の必要医師数の調査、医学生の進路等に関する質問紙調査、医学生と研修医へのフォーカス・グループ・インタビュー、地理情報システム(GIS)を用いた医療圏の設定に関する研究などを行っています。

多くの方の御協力により、これらの研究は順調に進み、興味深く、そして、政策にも活用できる貴重なデータが出つつあります。詳しくは平成 20 年度の報告書に記載する予定です。

研究以外では、大学の講座の役割として、「教育」と「実践」があります。「教育」では、医学部医学科の 3 年次の学生を対象に、地域医療関連の講義を行いました。

また、医学教育の指針が平成 19 年に改訂され、地域医療の内容が拡充し、医学教育の中で地域医療の講義と実習が必須化されることになりました。山口大学でも、山口の地域医療を担う人材の育成のため、今年 3 月に、萩市の公的病院・診療所で、医学生を対象にした「山口県地域医療セミナー2009 春・萩」を開催します。このセミナーは今後、県内のいくつかの地域で定期的開催していく予定です（夏には周防大島で開催予定）。

「実践」としましては、地域医療を支える人材の確保・派遣、地域医療を実践している方の後方支援もしたいと思っておりますが、それを可能にするマンパワーを確保できていません。一方、地域では、医療に加えて「保健」についてのニーズは高く、これまで私がやってきた健康づくりや健康教育の経験を活かして、特定健診・保健指導等の研修会あるいは実際の健康教室に携わったりもしています。

とにかく、地域医療や地域保健のニーズの多さにうれしい悲鳴を上げています。

Dr. CHOSHU プロジェクト!?

今後、どのようにすれば地域医療を担う優秀な人材を確保することができるのでしょうか。もちろん、それは一朝一夕にできるものではありません。その一環として、私たちは「やまぐち Dr. CHOSHU プロジェクト」というのを提唱しています。

CHOSHU は、Community Health Oriented Specialist with Humanity の略です。地域医療マインド（心） 暖かい人間性（ハート）そして、高い専門的知識と技術を持った医療人を養成・支援しようというものです。もちろん、“長州”ともかけています。

これまでも多くの関係者がさまざまな事業や活動を通じて地域医療を推進しようとしていますが、そうした事業・活動を有機的に連携させることで、より効果的なものになるでしょう。

また、重要なのは、社会に、これから医者となろうとしている学生等に、これらの活動をアピールすることです。

その意味で、キャッチーなネーミングやロゴ（右）のもと、関係者が一致団結して取り組むことはとても重要だと考えています。



このプロジェクトがどこまで浸透するか分かりません。しかし、面白くないギャグも言い続けられれば流行語になることもありますので、しばらくは、“Dr. CHOSHU!” と叫び続けようと思います（笑）。

最後に

以上、簡単ですが、山口大学医学部地域医療学講座を紹介しました。手作りではありますが、HPもありますので、山口大学医学部のウェブサイトからアクセスしてください。

実は、寄附講座の性格上、設置年限があり（2年間）残すところ1年弱になりました。

その後の運命は神のみぞ知るですが、限られた時間で出来る限りのことを行い、山口県の地域医療の発展への道筋を示すことができれば本望です。皆さまの御協力や御批判を賜りたく存じます。



HPアドレス <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~tiiki/front.htm>

この「山口県医療の風便り」を今後も継続希望される方の手続き方法

今回の第8号では、研修医の井上さんにスポットを当ててみました。やさしい感じが、あふれ出ている、今後の御活躍が楽しみな若手医師でした。また、インタビューは、御多忙にもかかわらず、萩市見島診療所長の中嶋さんにさせていただきました。中嶋さんも、離島医療に従事される中で、地域の方々といっしょに、新たな取組にチャレンジされているアクティブな方です。お二人の先生、本当にありがとうございました。

また、見島診療所のスタッフの皆さん、これからもがんばってください。

この「山口県医療の風便り」は、今後もいろいろな視点から情報を幅広く集め、内容を充実させながら、無料で発送させていただく予定です。次回第9号以降も、ご希望の方々に発送させていただきます。

つきましては、今後の発送をご希望される方は、お手数ですが、

ご氏名 ご年齢 ご住所（送り先） メールアドレス（お持ちの場合）

をご記入の上、 **FAX**（裏頁の申込書を使用）または **電子メール**（「山口県医療の風便り継続希望」とご記入ください）にてお申し込みください。

この風便りの内容についてのご意見やご希望、さらには、「読者より一言！」への投稿（400字以内でお願いします。）などもお待ちいたしております。

なお、これまでに「継続希望」のお申込みをいただいた方は、改めてお申込みいただく必要はございません。

申込先：

山口県健康福祉部地域医療推進室 宛て
〒753-8501 山口県山口市滝町1-1
FAX：083-933-2939
メール：a151001@pref.yamaguchi.lg.jp

山口県医師確保総合情報サイト「やまぐちドクターネット」でも「山口県医療の風便り」を御覧いただけます。

山口県医療の風便り継続申込書

FAX：083-933-2939

（山口県健康福祉部地域医療推進室 担当行）

今後も「山口県医療の風便り」の発送を希望します。

ご氏名	
ご年齢	
ご住所（ご送付先）	（〒 - ）
メールアドレス （お持ちの場合）	@
この山口県医療の風便りに 関するご意見やご希望など （自由記載欄）	